



福山青年会議所次期理事長

大島衣恵さん(34)

福山市光南町

福山青年会議所四十
八年の歴史の中で初め
ての女性理事長とな
る。

本業は能楽喜多流の
能楽師だ。江戸時代か
ら続く喜多流の歴史の
中で初めての女性能楽

師(シテ方)でもある。

八月の総会で次年度
の理事長予定者となっ
た。歴代理事長はおお

むね経済界出身という
中で文化芸能畑からの
就任ということにな
る。

就任に際して所信を
作成した。「わ」を以
つて尊しとなす」と題
している。「わ」には

「和」「話」「輪」の三
つの意味を込めてい
る。中でも基本にある
のは「和」だ。自分の
信するところを持った
上で、相手のそれも尊
重し議論を重ねて調和
していく。そんなイメ
ージを理想とする。

青年会議所には二〇
〇一年に入会し、協働
のまちづくりやふるさ
と創成等の活動を中心
に携わってきた。普段
の活動ではできない休

験や異業種の人たちと
のネットワーキングな
どに魅力を感じるとい
う。

大島家は明治以来、
約百年続く能楽一家
だ。大島さん自身も舞
台活動のほか、広島・
岡山県内の学校での能
楽教室などで多忙な
日々を送る。理事長と
なることで「いろいろ
な所に出る機会も増え
るが、自分の糧にした
い」と話す。そして理
事長としての活動で得
たことを地域に還元で
きればと考えている。

任期は一月一日から
一年間だ。福山青年会
議所は再来年が創立五
十周年となる。一五十
周年の準備の年」と位
置づけ、様々な事業を
展開していく考えだ。



福山青年会議所 太島衣恵・新理事長が會員

「和・話・輪を大切にまちづくりを」



副委員長や真のふるさと創生委員と創生委員を委員長などを経て、新理事長に選出された。以下に一問一答。

— 就任に当たっての抱負は。

(社)福山青年会議所(福山市西町二一〇一)、福山商工会議所七階)の2009年度理事長を務める大島衣恵さんが12月19日、福山市役所で記者会見を開き、着任を前にした心境や抱負を語った。写真。女性理事長の誕生は、昭和35年に同会議所が設立されてから初めて。任期は1月1日から一年間となる。

同市光南町の大島能楽堂に所属する、喜多流初の女性能楽師でもある大島さん。文化・芸術的アプローチによるまちづくりや、女性ならではの視点を生かした柔軟な組織運営に期待がかかる。

大島さんは1974年生まれ。三四歳。東京藝術大学音楽部邦楽科を卒業、喜多流シテ方能楽師として活躍し、講演活動などを通じて伝統文化の普及にも努めている。同会議所には2001年に入会、広報渉外委員会

互いの信じるところを「話」し合い主張し合った上で、理解を深めたい。そこから、地域や世界へのネットワークという「輪」を広げていければ。

経済状況が厳しく、どの業種も大変な今だからこそ、心の肥やしが必要。事業を通じて貢献できるよう心掛けたい。

— 初の女性理事長、かつ伝統芸能に携わっている点が注目されている。

福山では初だが、三原JICをはじめ世界には多くの女性理事長がいる。その中で、私なりの提言ができれば。専門的な知識や技術としての文化ではなく、世の中に根差した文化をもっと発信し、皆さんに親しんでいたきたい。それが、まちづくりのあり方に対して違う角度からの光を当てることにつながるのでは。

— 組織の編成は。

根幹となる三つの組織を「和のまちづくり推進室」「つよくやさしい人材育成室」「つなぐりの輪構築室」と名称変更し、内容を明確に打ち出した。それぞれの下に二つの委員会が属する。また、2010年の設立五〇周年に向け「五〇周年企画会議」を設置して、記念事業の準備を行う。

手の企業幹部を中心とするJICでは新規入会希望者が減る恐れもある。JICに所属するメリットをどのように訴えていくか。

二〇一三〇代の時期に、仕事以外で学びの場を得られるのは大変有意義なことだと思う。JICは「奉仕」「修練」「友情」を柱としているが、私自身は己を磨く「修練」のメリットを強く感じている。また、多くの人々との出会いや結び付きは、業務内外のさまざまな局面で役立つはず。

能を大成した世阿弥が「雄時」(雄飛の時)「雌時」(充実を図るべき時)と区別したように、世の中も個人も上がった下があったりの繰り返し。今何を蓄積するかで、次の波が来た時にどんな花を咲かせられるかが決まる。JICで自分を磨くことは必ず今後の糧になる。興味をお持ちの方はぜひ連絡してほしい。

新規入会の申し込み・問い合わせなどは事務局(☎084・922・5992)まで。なお、ほかの役員は次の通り。(敬称略)▽副理事長・尾方興一郎(㈱尾方電業社営業次長)、徳永行紀(㈱マロンドール社長)、石井宏和(㈱福山自動車検査場社長)▽専務理事・坂本周作(㈱サンフーズ社長)



09 備後で輝く女性たち

⑥

題字は書家・中村文美さん

「四海波静かにて、国も治まる時つ風……。2009年元旦、喜多流大島能楽堂（福山市光南町）に、新年を言祝ぐ朗々とした声が響き渡った。しめ縄をはった舞台上では、紋付き袴姿で横2列に並んだ7人の家族が、誰もいない客席に向かって、声を合わせて「高砂」の一節を語っていた。

江戸時代初期から続く能のシテ方（主役）の流派、喜多流を伝える大島家恒例の「謡い初め」の光景。だが、前列下手側に座った喜多流初の女性能楽師、大島衣恵さん（34）の思いは、いつもの年とは違っていた。この日、福山青年会議所（JCC）理事長としての任期が始まったからだ。

「様々な出会いのおかげで、今の私がある。育ててくれた古里のために全力を尽くしたい」。背筋をピンと伸ばし、そう誓った。

☆ ☆

喜多流職分（幹部）で重要無形文化財総合指定保持者、大島政允さん（66）の長女。物心つく前から父らに能を教わり、2歳の時、「鞍馬天狗」

喜多流初の女性能楽師 大島 衣恵さん 34

能の指導をする大島さん（左）。明るい人柄で生徒から慕われている（喜多流大島能楽堂で）



JCC理事長新たな挑戦

る。能にも同じ可能性がある」という知人のアメリカ人 能楽研究者

の子方（子役）で初舞台を踏んだ。「父のようにになりたい」とあこがれたが、舞台上に立てたのは小学校卒業まで。質実剛健で男性的な芸風が特徴の喜多流は女性のシテ方を認めておらず、関東では女性は楽屋にも入れないほど。1歳年下の弟輝久さんが、着付けなど裏方の修業を始めるのを眺めるしかなかった。

☆ ☆

それでも大好きな能の稽古はやめなかった。「シテ方は無理でも、能にかかわり続けたい」。悩んだ末に東京芸術大邦楽科に進み、囃子方が扱う楽器、小鼓を学んだが、シテ方への思いは断ち切れなかった。2000年春、流派の幹部とその高弟ら約30人に手紙で「すぐにはプ

☆ ☆

口になれなくてもいい。舞台という修業の場を与えてほしい」と訴え、「父親の下でなら」との条件付きで活動を許された。

以来、年約30回の公演の傍ら、広島、岡山両県内の小中学校での能楽体験指導や社会人への個人指導に力を入れてきた。能を学んで6年になる三原市久井町の高校教諭森和子さん（45）は「衣恵さんの自然体で明るい雰囲気が出てほしい」と大ファンだ。

福山JCCでは、07年に福山の歴史や文化を紹介する活動を担当し、地域の魅力に気付いていない若者が多いことを痛感。「能を通じて地域とかけがえのない経験をつくり、に生かしたい」と理事長に立候補した。

09年の目標は対話中心の街づくり。能や書、琴などの伝統文化に触れる機会を増やし、増え続ける外国人との交流も考える。2日、JCCの仲間に教わって初めて書き込んだブログに「いろいろなことに挑戦できる楽しみな一年」と記した。

能楽師としても大きな挑戦が待っている。全編英語の新作能を、英国で12月に上演するのだ。言葉の壁に不安はあるが、「オペラも最初はイタリア語だったが、今は世界中の言葉で演じられてい

プロになって、もうすぐ10年。少しずつ自分らしい活動が実を結んでいると感じる。同時に、どんな活動も自分一人では出来ないことも学んだ。「能で一人前と認められるには、まだまだ。街づくりも、すぐに結果は出ない。それでも普遍的なテーマに取り組んで、次の世代につないでいきたい」。

日本の伝統を守りながらも、世界に目を向けて軽やかに舞い始めた大島さん。枠にとられない柔軟な発想は、この街にどんな風を吹き渡らせてくれるのだろうか。

（向井友理）

女性初の福山青年会議所理事長

大島 衣恵さん(34)

—福山市



400年の歴史を持つ喜多流の名門、大島家の長女。2歳で初舞台を踏み、02年に喜多流初の女性プロとし

話や調和は現代社会に最も必要なこと。日本の伝統や文化を重んじ、「わ」の心をもう一度見直す必要がある。

福山のまちづくりに対しても思いは同じだ。行政と市民の間で本当に必要な話し合いがされているのか。対話の場を設けることも青年会議所の大きな役割と考

能舞台から新境地へ

てシテ方(主役)デビュー。今年、福山青年会議所で初の女性理事長という大役に挑戦する。

聖徳太子の言葉から「『わ』を以って尊しとなす」をスローガンに掲げる。和の心を持って対話を重ね、そして世界にも通じる人の輪を生み出す。「対

える。

伝統芸能の世界で培った精神。今の厳しい経済情勢については、自分が勢いに乗っている時の「男時」、その逆の「女時」という能楽の言葉を例に「厳しい時代が永遠に続くわけでは無い。そうした時代に何かを蓄え、次の波が来た時に花

を咲かせることが大切」と独特の考えを持つ。

東京芸術大音楽学部卒。国内外の舞台に出演する傍ら、小学校や中学校などに出向いて能楽体験学習に取り組み、伝統芸能の普及をライフワークとしている。

【重石岳史】



能を舞う大島さん

福山青年会議所
（JC）のトップに
今月、女性として初
めて就任した。「和、
話、輪の三つの『わ』
を大切に活動を発展
させたい」と意気込

よ
ろ
し
く

む。

三つの「わ」には、
和の心をはぐくみ、
対話を重視したまち
づくりを進め、活動
の輪を世界に広げて
いくとの思いを込め

三つの「わ」大切に活動

た。「よりよい未来
年に向けた準備も課
の指針を描き、青年
題。喜多流初の女性
会議所としての役割
楽師として全国各地

女性で初めて福山JC
理事長になった

おおしま きぬえ
大島 衣恵さん



とが大切。文化の薫
り高いまちづくりを
進められたら」とも
話す。

「女性初の理事長」
には「女性だからど
うということはない
く、自分なりにでき
ることをやるだけ」
とさらり。任期は一
年。

ダイビングや美術
鑑賞、茶道と多趣味。
福山市光南町の自宅
で両親と三人暮ら
し。三十四歳。

（原英昭）

をしっかりと果たし
公演しており、「経済
が冷え込む時こそ、心
温まる芸術に触れるこ
来年の発足五十周